

カンボジア・王立農業大学 (RUA) のカリキュラム強化

プロジェクト開発領域研究機関研究員 榎原大悟

カンボジアは、長期におよぶ内戦、経済封鎖、国際的孤立のため、経済的、社会的に大きな被害を受けた。このような状況の中で、同国の農学高等教育は一時完全に崩壊した。

1964年に設立された王立農業大学(RUA)は、内戦時代に完全に教育機能を停止した後、1984年にソビエト連邦による人的、物質的、金銭的援助を受けて教育を再開した。しかし、1990年のソビエト連邦崩壊にともなう突然の援助停止により、RUAの教育の質は再び大きく低下した。これ以後、RUAの教育改善はほとんど進んでおらず、現在も多くの問題を抱えている。特に、ポル・ポト時代の虐殺による影響もあり、人材不足の問題は深刻である。

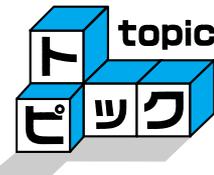
ICCAEは、RUAの教育強化の一環として、2000年8月1日から10月31日まで3ヶ月間、RUA学長補佐ヴィソルソック・タッチ氏を客員教授(Ⅲ種)としてICCAEに招へいし、日本を含む世界の大学の教育システムについて共同研究した。ICCAEは、RUAの新カリキュラムが国際的な基準に適合するように以下のことを提案した。1) 大学修了年限を4.5年から4年に短縮する。2) カリキュラムを時間制から単位制に転換する。3) 卒業必要単位数を168単位相当(時間を単位に換算)から130単位に減らす。4) すべての科目が必修であったのを改め、選択科目制度を導入する。5) これにともない、英語とフランス語を必修から選択に変える。6) 実験・実習科目を充実させる。7) 学生実験室を集中化する。8) これまで学外の人材によって指導してきた卒業論文の作成を学内の人材による指導に移行する。これらの提案は、多少の修正が加えられた後RUAによって受け入れられ、2001年度カリキュラムから導入されることになった。

新カリキュラムの導入決定を受けて、2001年2月8～9日にRUAキャンパスにおいて、「RUAの単位制カリキュラムの開発」と題する会議がカンボジア政府高官、世界銀行関係者および他



RUAで開催されたカリキュラム強化会議の風景

大学関係者の出席を得て開催された。この会議においてICCAEは、今後のRUAの農業教育強化に向けて更なる提案を行った。この提案では、教育の質改善、教育制度の強化、人材育成、施設の有効利用と拡充などについて、具体的な方針を打ち出し、タイムテーブルによる実際の計画を示した。RUAは今回の提案にも大きな期待を寄せている。今後、RUAと本センターは今回の提案をプロジェクト化し、推進していく予定である。



JICA GIS研修プログラムの実施

11月27日から12月15日まで、国際協力事業団(JICA)の研修プログラムの一つとして、地理情報システム(GIS)研修が実施された。途上国から4名の研修生を迎え、本センターの北川(協力ネットワーク開発領域)を中心とした講師陣による研修が行われた。地理情報システムは、途上国における土地管理、環境保全等の基礎データを取るために必須の技術であり、途上国からの要請が多い分野である。名古屋大学及びJICA中部国際センターにおける講義、実習の他、三重県宮川村の森林管理計画地視察、民間企業によるGIS利用の見学等が行われた。本研修プログラムは今年度が第一回であり、五年間継続される予定である。終了後のアンケートでは、極めて好評であった。アンケート結果に基づき、来年度は研修生数の増加、研修内容の改善等を行い、更に優れた研修を行う予定である。

科学研究費特定研究領域申請

本センタースタッフの共通の悩みは、独自プロジェクトの立案、予備調査のための資金確保である。広島大学CICEでは、教育学分野の科学研究費によってこれらの資金を確保しているが、農学分野、自然科学分野には国際交流、国際協力に関する科研費細目がなく、なかなか申請が通らないのが現状である。そこで、本年度から、科研費特定領域研究の目的に「国際的、社会的要請が大きいもの」という一項が加わったのを契機に、この分野への申請を行った。竹谷裕之センター長を代表者として、本センター、名古屋大学法学研究科、生命農学研究科、先端技術共同研究センター、東工大、東大、阪大、北大、近畿大等から、九名の代表者が集まり、「バイオテクノロジー技術移転国際協力に関する諸問題の解決法を明らかにする」ことを目的としている。農学、理学、教育学、法学、経済学等、それぞれ異なった分野の研究者が集まって、多くの側面からこの問題に取り組むという「文理融合型」の共同研究である。農学分野以外のネットワーク形成に向けて、日本評価学会とともに、本センターの活動を拡大するために重要な意義があると認識している。

本センター関連の海外業務渡航(2000,10-2001,3)

門平睦代	フィリピン、ビサヤ州立大学 イモ栽培に関する農民参加型共同研究	榎原大悟	カンボジア、王立農業大学 カリキュラム強化会議への出席
武田 穰	ナミビア、ナミビア大学 ナミビア大学支援プロジェクトの立案	松本哲男	カンボジア、王立農業大学 カリキュラム強化会議への出席
福田勝洋	(生命農学研究科) カンボジア、王立農業大学 野生生物資源に関する調査	北川勝弘	ケニア、ジョモケニアアツク農工大学 AICADプロジェクトの支援
高倍鉄子	(生命農学研究科) ベトナム、カントー大学 耐塩性イネに関する調査	門平睦代	パラグアイ 農業中等教育プロジェクトに関する調査
松本哲男	ベトナム、ハノイ大学 耐塩性イネの普及に関する共同研究	竹谷裕之	ナミビア、ナミビア大学 ナミビア大学支援プロジェクトの立案